平成 21 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」

川崎市認知症ネットワーク（かわさきしにんちしょうねっとわーく）

【設立年月日】1996 年 3 月 31 日

【授賞理由】

川崎市において 26 年間にわたり取り組んできた「認知症になっても 1 人の人間として 1 人の社会人として生活ができるように地域で支え合いやさしい町を作っていこう」とする活動は，全国の市民活動の草分けともいえるものであり認知症の人たちとその家族に生きる意欲を与えた．その活動に対し本賞を贈るとともに今後の更なる活動を期待するものである．

【施設・団体概要】

人口 140 万政令都市川崎市で認知症家族会，隣人としてサポートしている市民グループがネットワークを組み，生活目線で認知症ケアを目的とした活動を全市に展開している．

【事業活動等】

- 認知症の人・家族をサポートする活動（相談活動「サポートほっと」，若年認知症サポートグループ「どんどん」，ボランティアグループ「ねこの手」，徘徊サポート活動「ワンワンパトロール　あい」）
- 社会啓発活動（「劇団 SOS」，キャラバンメイト活動，啓発講演会「川崎市いきいきフェア」等実施，実務者市民対象の介護体験語り部・シンポジスト等）
- 行政・関係機関・市民とのネットワーク，協力協働による地域ケア構築，孤立しない町づくり

【認知症ケアに関する活動内容】

１．家族会・市民グループのネットワークによる認知症ピアケアの取り組み

1983 年，時代はまだ認知症に対する偏見差別のある中，社会の水面下で孤軍奮闘していた家族に出会い認知症介護の悩みを分かち合う家族会が誕生．認知症の人や家族が，堂々と暮らしていく社会を願い，介護現場の声なき声を社会に発信．家族会が，3 団体から 16 団体へと増加した．1996 年から全市的なネットワークを設立し，家族会やミニデイサービスによるサポートを開始した．2002 年から認知症悩み相談「サポートほっと」，若年グループ「どんどん」，おしゃべりや外出付き添いなどのボランティアグループ「ねこの手」など全市的な認知症ピアケアを展開．「孤立する仲間を出さない」家族会の原点が生かされている．

２．行政，関係機関との協力協働による認知症ケアへの取り組み

「ピアケアと共にシステムによる認知症支援は，介護現場の実質的な大きな力になる」

との思いから，1993 年行政に家族会・市民グループ 5 団体で要望書を提出．その後も市の保健福祉計画策定協議会委員，介護保険運営協議会委員等で認知症ケアへのニーズを届け続けている．1996 年市職員向け「ケアガイドブック」作成参加をはじめ，グループホーム検討委員会等，川崎市認知症普及啓発検討会から川崎市キャラバンメイト連絡協議会立ち上げへと市・関係機関と協力しながらで川崎市の認知症対策取り組みに寄与してきた．

３．地域社会の認知症ケア推進へのとりくみ

認知症になっても，介護する家族も 1 人の人間として，また 1 人の社会人として生活を継続できるようにしたい．そんな偏見から脱却した正しい認知症理解と地域ケア構築は，1996 年ネットワーク設立の大きな目的の 1 つであった．当時は特に徘徊問題で苦しんでいる家族が多く，地域の見守り発見保護の実態調査を実施．人間関係の希薄な都会で，保護は生活の場ではなく広域化して時間がかかっているという実態を把握した．その実態調査は行政を動かし, PHS 徘徊探知機導入, 徘徊 SOS ネットワーク構築へと施策に反映された．生活の場での見守り機能の大切さを痛感した．1998 年に全市 3 ヶ所で講演会，セミナーを実施，徘徊見守りと保護を盛り込んだわかりやすい寸劇の上演．また「劇団 SOS」を旗揚げ，「認知症になっても安心して住める町づくり」をテーマに，全市的な啓発講演会と合わせて寸劇を上演している．さらに劇団は小グループで市内各地でキャラバン活動，地域包括支援センターとのコラボレーションによる啓発活動にも取り組んでいる．徘徊中に犬を散歩させている人に保護される場面を入れて「地域の目」の協力を訴え，昨年には「ワンワンパトロール　あい」を立ち上げ，賛同するワンワン仲間を少しずつ広げている．